

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

きょう ねんせい ねんせい どうこう
今日は3年生と11年生が登校してきます。マスク姿で表情はわかりづらいですが、皆さんの元気
すがた はいけんほんとううれ
な姿を拝見して、本当に嬉しいです。この3ヶ月の間に背が伸びたり、大人っぽくなったりして、
ひとり せいちょう かん
一人ひとりの成長を感じています。

しんがた かんせんかくだい ともな さまざま にちじょうてき つか
新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、様々なカタカナことばが日常的に使われるようになりました
みな め みみ せかいじゅう ま こ
た。皆さんもよく目にしたり、耳にしたりしていることでしょう。世界中が巻き込まれていますので、
かんせんしょうたいおう とくべつ ひょうげん えいごけん けっか
感染症対応の特別な表現が英語圏から入り、そのままカタカナにしてつかっている結果といえるの
でしよう。その中の一つ、「ソーシャル・ディスタンス（social distancing）のことが、英語の
native の先生との間で話題になりました。「『Social distancing』（人と人との間をあけること）
はよくない。今、守らなければならないのは『フィジカル・ディスタンス Physical distancing』
からだ からだ あいだ ころこ ちか ちから こ はな き
（体と体の間をあけること）だ。心は近くていいのだから。」と力を込めて話されるのを聞き、
ひじょう なっとく わたし ちゅうい
非常に納得しました。私たちが注意しなければならないのは、ウイルスをあげたりもらったりしない
ために、からだ からだ あいだ きより お けっ じぶん み まも ひと かか
体と体の間に距離を置くということです。それは決して、自分の身を守るために人とは関
わらないようにしなさい、という呼びかけではないはずです。

くちもと おお たが ちかよ はな とき せいりょう さ ひと
マスクで口元を覆い、互いに近寄らないようにしたり、話す時にも声量を下げたりしていると、人と
どのように関わったらよいのか、わからなくなることがあるのかもしれない。しかし、こんな非常
じたい けいけん とお じぶん じぶん まも じぶん まも
事態の経験を通して、自分のためだけに自分を守るのではなく、みんなのために自分を守るのだと
しせい つちか あいて だいじ きじゆん ほんだん こうどう ひと せいちょう
いう姿勢を培い、相手を大事にするということを基準に判断し行動できる人に成長してほしいと
ころ ねが ひとり はいりよ
心から願っています。一人ひとりのかけがえのなさに配慮

たす あ まも きょうどうたい がっこう なか
しながら、助け合い、守りあう共同体が、学校の中にも、
しゃかい なか ひろ
社会の中にも広がっていきますように。

